東　俣　野　2月号
東俣野小学校　学校だより　令和５年１月３１日

「春」はすぐそこまで

副校長　中山　純子

寒い日が続いています。今年は、１月 20 日に「大寒」を迎えました。この時期は、１年で一番寒さが厳しくなる頃です。でも寒いだけではなく、梅が咲き始めたり、ふきのとうが地中から顔を出したりと寒い中にも少しだけ春の気配を感じることができる季節とも言えます。この「大寒」が過ぎると、「立春」。暦の上では、春になります。

今年の「立春」は２月４日。その前日の２月３日は「節分」となります。「節分」は文字通り「季節の分かれ目」。つまり本来ならば１年間に４日あるはずです。なぜ、冬から春になるこのときだけ「節分」という言葉が残ったのでしょうか。それは、季節を表す二十四節気において「立春」が順番で１番目、つまり１年の始まりにあたる日が「立春」になるからです。その前日である「節分」は今の大みそかと同じような意味合いをもっているのです。だからこそ「節分」という言葉が残り、この日には豆まきをしたり恵方巻を食べたりして、邪気を祓い清め、１年間の無病息災を祈るのです。

東俣野小学校では、今年はこの「節分」の日に凧あげ大会が行われます。いくつか説はありますが、凧あげが今のようにお正月に行われるようになった理由は、もともと立春の時期に空を見上げることは健康に良いという意味の言葉があり、そのため新年を迎えると健康を祈るために凧あげをするようになったからだといわれています。今年の凧あげ大会の日程は、立春の時期に行われるのでぴったりです。凧あげ大会に向けて、子どもたちは思い思いの凧の図柄を考え、凧名人の方にも助けてもらいながら一生懸命凧づくりに取り組んできました。みんなの凧が願いを乗せて大空に舞いあがり、東俣野小学校はもちろん、日本中、そして世界中の人が健康に過ごすことができる年になるとよいなと思います。

早いもので、令和４年度も残すところあとわずか。どの学年も次の学年への進級の準備を始めます。「１月は行く、２月は逃げる、３月は去る」という言葉もあるように、時間は待ってくれません。一日一日を大切にして、さまざまなことに一生懸命取り組んでほしいと思います。